

鹿島灘はまぐりの資源状況

鹿島灘はまぐり（以下、はまぐり）は大洗以南の本県沿岸漁業の重要対象種です。その資源量は、数年に一度おこる大規模な発生に支えられています。現在の資源は、H26年生まれ（以下、H26年級群）、H29年級群、及びR2年級群を主体として構成されています。

水産試験場では、はまぐりの資源状況を評価するため、漁業調査指導船「せんかい（4.9トン）」による採集調査を行っています。今年の調査は、大洗町から神栖市にかけて、約4km間隔で設定した17地先の距岸200～1,600mの範囲に設けた合計97の定点において、4～6月に実施しました。なお、今年の調査から、調査地点を1地先5定点（浜欠（40HL南））追加しました。各定点では調査用小型貝桁網（桁幅56cm、爪間隔24mm）を最大10分間曳網し、曳網面積当たりの分布密度を求め、鹿島灘におけるはまぐりの資源個体数及び資源重量を推定しました。

- 資源個体数・資源重量が増加 -

調査結果からR5年の推定資源量は、資源個体数が5,249万個、資源重量が5,024トンでした（図1）。殻長組成に注目すると、殻長85mm前後のH26年級群、殻長70～80mm前後のH29・30・31年級群、殻長62mm前後のR2年級群が主体となっていました（図2）。

次に、地先ごとの平均分布密度に注目すると、H26・29年級群が主体となる殻長70mm以上のはまぐりは、大洗町北部保護水面、鹿嶋市荒野、平井及び神栖市波崎といった地点に高密度に分布していました。R2年級群が主体となる殻長70mm未満のはまぐりも、同様の地点で高密度に分布する傾向がみられましたが、特に今年度から調査地点に追加した、大洗町浜欠（40HL南）で高密度に分布していました（図3）。

調査点数を変更したため単純比較は出来ませんが、R5年の推定資源量を前年（R4）の推定資源量（資源個体数3,107万個、資源重量3,211トン）と比較した結果、個体数、重量ともに増加していました。資源が増加した理由としては、R2年級群が漁場に加入したことが考えられます。

今後のはまぐり資源の利用については、R2年級群が主体になっていくと考えられます。しかし、加入直後のR2年級群を大量に漁獲してしまうと、増加した資源が、再度減少に転じる可能性があります。持続的な資源利用をしていくため、計画的な漁獲を継続していく必要があります。

（定着性資源部 関根 和輝）

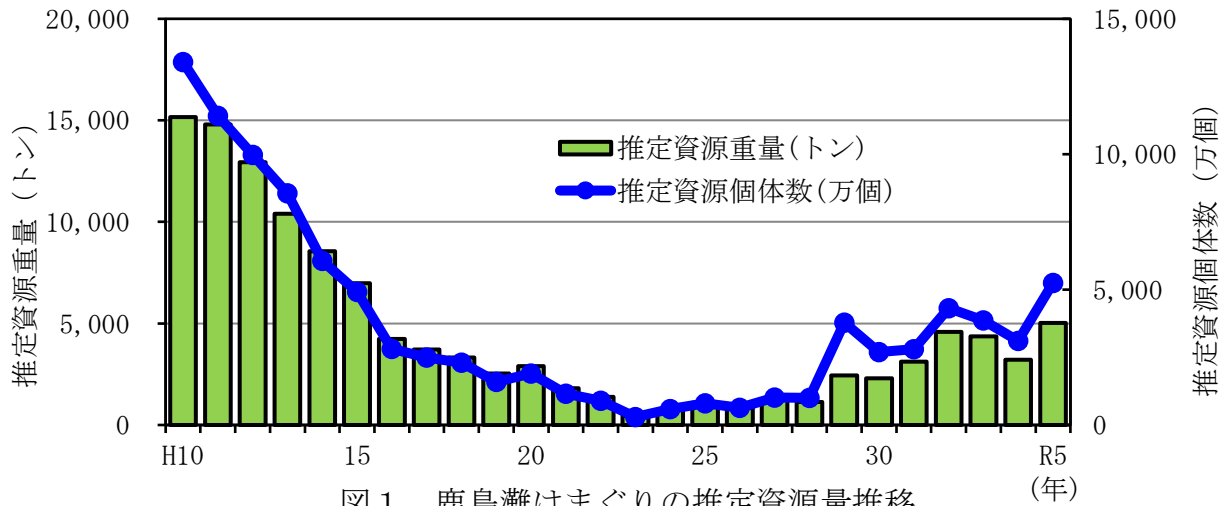


図1 鹿島灘はまぐりの推定資源量推移

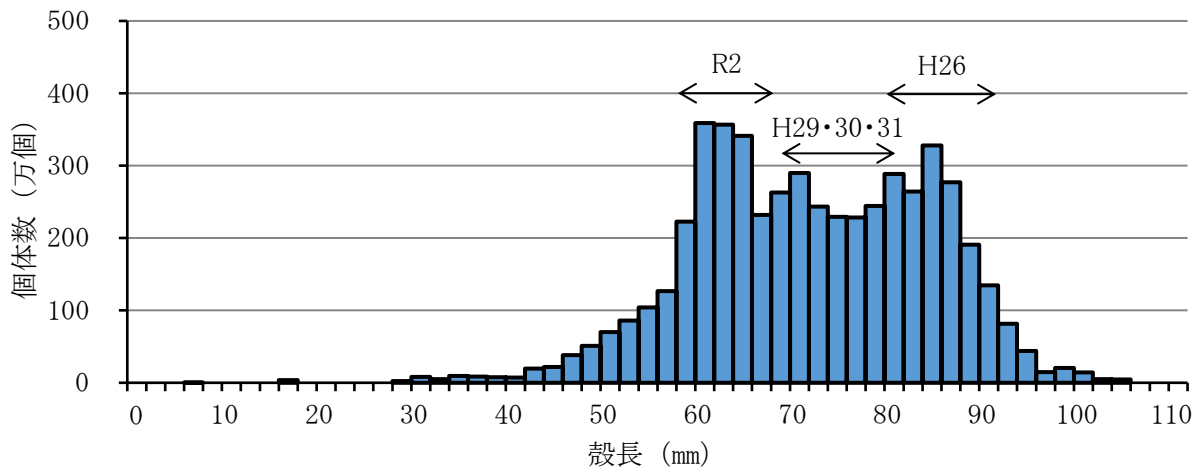


図2 鹿島灘はまぐりの殻長組成

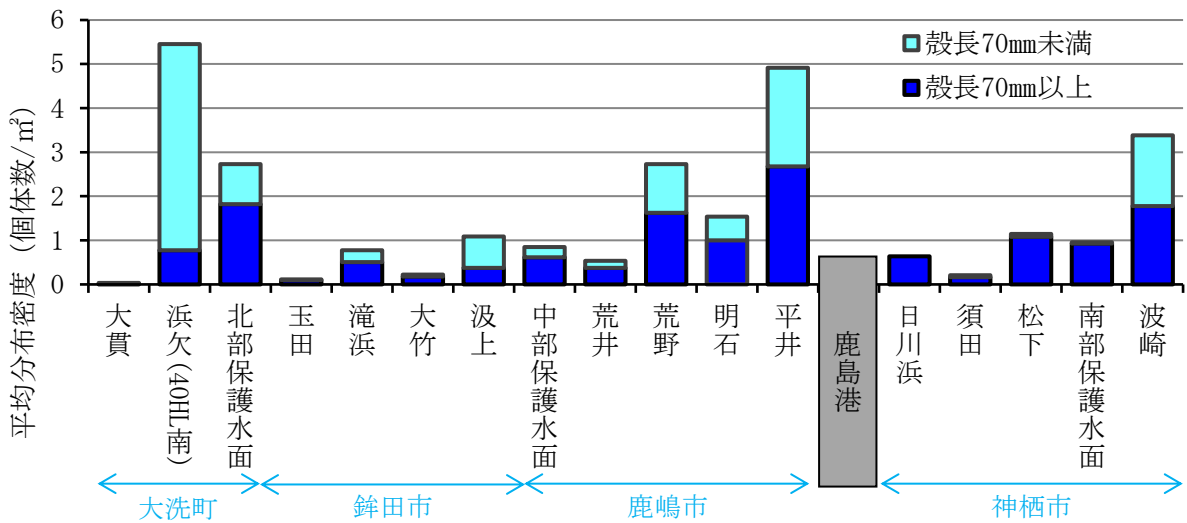


図3 鹿島灘はまぐりの地先ごとの平均分布密度